

憲法改悪を許さない全国署名 各地でこんな取り組みが ③7

2022年2月7日

9条改憲NO！全国市民アクション 連絡先 メール info@kaikenno.com ☎03-3221-4668

コロナ・オミクロン猛威への対策が第一ではないのか！ 憲法改正狙う国会内改憲勢力 VS 世論＝ コロナ対策・命・暮らし・雇用守れ願う

≪世論調査は語る 日経新聞世論調査＝22年1月28日～30日調査
「岸田首相に優先的に処理してほしい政策課題は？」≫

新型コロナウイルス対策	49%
景気回復	38
年金・医療・介護	36
子育て・少子化対策	28
外交・安全保障	22
財政再建	21
地域活性化	18
脱炭素に向けたエネルギー政策	12
社会のデジタル化	11
防災	10
行政・規制改革	8
憲法改正	7

世論は改憲など望んでいない！
「憲法改悪を許さない全国署名」で、憲法審
査会を、国会を、改憲勢力を包囲しよう！

各地の取り組みから

東京 総がかり行動実行委員会が第4回全国交流会

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は2月4日、オンラインによる第4回全国交流会を開催しました。岸田政権の下で進められようとしている敵基地攻撃能力保有と改憲をめぐる情勢を共有し、昨年の総選挙を振り返るとともに参院選に向け市民と野党の共同をさらに前進させ、「憲法改悪を許さない全国署名」の推進で、改憲阻止、憲法を生かす世論を高めていこうと意思統一しました。

交流会では、高田健総がかり行動実行委員会共同代表の主催者あいさつに続いて、市民連合の福山真劫さんの連帯あいさつが行われました。小田川義和総がかり行動実行委員会共同代表の問題提起を受け、新潟の有田さん、山梨の今井さん、福井の宮下さん、京都の梶川さん、広島島の石口さん、福岡の竹内さんが発言。藤本泰成総がかり行動実行委員会共同代表がまとめの発言をしました。

交流会は、総がかり行動実行委員会のHPからYouTubeで全容を視聴できます。

北海道 署名を訴え、盛んな対話 124 回目の行動 **札幌市西区**

戦争させない札幌西区民の会は1月29日、地下鉄琴似駅前前で通算124回目となる宣伝行動を取り組みました。小雪が舞う中、「戦争は最大の人権侵害 9条改憲を許すな」の横断幕などを掲げ、「憲法改悪を許さない全国署名」の協力を呼びかけました。

署名をした人たちは、「戦争なんかやったらこの世は終わり」（女性・76歳）、「自らは戦場に行かないで若者を狩り出すことになる。自民党や維新の会は何を考えているのか」（女性・63歳）、「平和であるのは平和憲法があるから。憲法を変える必要などない」（男性）などと語りました。「敵基地攻撃ってどういうこと？」と質問した女性に丁寧に答えると納得して署名してくれました。

北海道 「コロナ禍と憲法」木村草太氏が講演 **札幌弁護士会**

札幌弁護士会主催の憲法講演会が1月29日、札幌市で行われました。

坂口唯彦同会会長は、「この10年間に憲法の基本的な考えを揺るがす数々の法整備が導入された。憲法の理念にもとづき社会を冷静に見つめ権利を尊重していくことが大切。今回の講演会は憲法の価値や立憲主義を考える機会」とあいさつ。

木村草太東京都立大学教授が「コロナ禍と憲法」を講演。改憲勢力が、緊急事態条項導入を口実に9条改憲を狙っていることに警鐘を鳴らしました。今日の緊急事態条項の動きで、全国一斉休校や布マスクの配布など政府の独断での対応が、ドイツのワイマール憲法の下で緊急事態条項が乱用された歴史に通底することを指摘しました。

山形 署名の力で改憲ストップを！ **9条の会県連絡会が総会**

山形県9条の会連絡会は1月29日、山形市内から全県をオンラインで結び、「2022年度総会」を開催しました。

高木紘一同会会長はあいさつで、岸田政権が敵基地攻撃能力保有と任期中の改憲を表明しているもとの、改憲発議と参院選での改憲勢力3分の2阻止は絶対的課題であり、そのためにそれぞれの9条の会での学習会、講演会、集会などを開き、討論し、行動しようと呼びかけました。

参加者から、「岸田政権は戦争する国づくりの最終段階に差し掛かっており、今こそ9条の会の活動強化が急務となっている」「新署名の担い手を増やし、ニュースなどで経験の交流を」「自民党の改憲4項目の内容についてよく知ることが大事」などの意見がだされました。清野真人事務局長が、「参院選で立憲野党と市民の共同が改憲勢力とたたかう最大の力、署名運動は改憲発議阻止の決め手」と強調し、チラシの作成、各団体の署名運動との連携と集約体制の確立などの提起をしました。

静岡 20人が宣伝・署名 子どもたちとも対話 **清水区9条の会など**

静岡市清水区の**清水9条の会連絡会と憲法を考える有度（うど）の会**が1月28日、JR草薙駅前前で、「憲法9条を守ろう」と宣伝し、「憲法改悪を許さない全国署名」の協力を呼びかけました。行動には20人が参加しました。

参加者は、「9条に自衛隊を書き込むな！」とした横断幕や「改憲反対」のプラカードを掲げ、歌・「青い空を」や「折り鶴」を歌い、マイクでスピーチし、通行人にアピールしました。

署名をした人たちは口々に「戦争はいけない」と語りました。また小中学校の児童生徒たちとも対話になり、戦争放棄の憲法9条の意義や自衛隊のあり方、平和の大事さなどを説明するとうなずき納得。6年生の男女は「9条を変えようとする人たちは子どもの気持ちがあわかっていない。憲法を守ってこそ平和でいられる」と話していました。

三重 手書きの宣伝物でアピール、「声をあげ続ける」 **伊勢市**

安倍9条改憲NO伊勢市民アクションは2月3日、伊勢市駅前前でスタンディングを行い、「憲法改悪を許さない全国署名」の宣伝・署名行動に取り組みました。

国会正門前で毎月3日に実施されている行動に呼応するもので7人が参加しました。

参加者はそれぞれ「9条の改悪は許さない 戦争する国づくりダメ」「台湾有事で戦争するな！戦争しない日本をつづけたい！」などのプラカードや憲法第9条の条文を手書きした横断幕などを掲げ訴えました。

行動に参加した戦争体験者である84歳の女性は、「戦争も核兵器も絶対反対。朝鮮人の強制労働や日本軍慰安婦問題などを伝えなくなっていることに危機感を持っている。正しい歴史を教えることが大事」と語り、75歳の女性は、「無関心な人が多くなり、安倍元首相のような一部の、声が大きい人が社会に影響を与えるようになってきているのではないか。声をあげ続けていきたい」と述べました。

奈良 初の4団体共闘 改憲情勢で憲法学習会 奈良の生協組織

奈良県生活協同組合連合会、ならコープ、ならコープ労働組合、ならコープボランティアグループ平和の会は1月29日、共催して奈良市で憲法学習会を開催、Zoomも併用して行いました。

主催者あいさつで松本俊一労組委員長は、「改憲が具体的になりつつある今、悠長に構えていられない。4団体の共同は初めてだ。危機感を持っての行動だ」と述べました。

中田進関西勤労者教育協会副会長が、「コロナ禍で見えてきた憲法の大切さ」を講演しました。消費税増税分が病床削減の財源につかわれるなど逆立ちした医療・社会保障政策を批判、「人間らしく生きる権利」が脅かされていること、労働者の賃金が30年間増えていないことを指摘し、「人間らしく働く権利」も保障されていないと強調しました。

参加者から質問や感想が寄せられました。『軍事力を強化しないと他国から攻められる』というひとたちに憲法を守る意義をどう伝えたらいいか』との質問に、中田さんは、『軍事力を強めて戦争を止められるのか』『他国を上回る軍事力を持つにはどれだけ金がかかる？』などと話し合おう』などと答えました。参加した労働者(32歳)は「自ら学ぶことが何より大切だと思った」と感想を述べました。

和歌山 署名の推進、世論と運動で改憲阻止を 全県意思統一集会

憲法九条を守るわかやま県民の会は1月30日、全県意思統一集会をリアルとオンライン併用で開催しました。

集会では、深谷登さん(県年金者組合)が深刻な憲法改悪の状況に対し、「憲法改悪を許さない全国署名」の目標を持ち、達成しようと呼びかけました。憲法9条を守る和歌山弁護士会の浅野喜彦弁護士は連帯あいさつで、改憲策動が憲法の民主主義や平和主義を根底から覆すものであると批判、それを許さない運動の強化を訴えました。

講演した小田川義和総がかり行動実行委員会共同代表・憲法共同センター共同代表は、自民、公明、維新が参院選に向け、国民の意思とは無関係に党利党略で改憲を利用していると告発、改憲を今年最大のテーマとし、敵基地攻撃能力保有を公言する岸田首相は安倍元首相以上に危険であり、背景にアメリカの圧力があることを指摘しました。国会内の力関係を盛り返すには世論と運動が必要であるとし、全国署名の成功を訴えました。改憲をくいとめ、政治を変える道は市民と野党の共闘しかないことを強調しました。

香川 「休んでいる場合か」 署名運動推進の学習交流会 高松市

1月23日、「憲法改悪許さない全国署名運動学習交流会」が開かれ高松市の会場とオンラインで70人が参加しました。

九条の会の太田展生代表は開会のあいさつで、「敵基地攻撃をやれば相手から反撃があって全面戦争になる。憲法が改悪される。九条の会を休んでいる場合じゃない、頑張って行動していきたい」と述べました。

講演をした重哲郎弁護士は、「憲法9条に自衛隊を書き込むことがいかに危険なことを国民に伝えることが大事」と強調。参加者からは「憲法は日々の暮らしとかけ離れていて関心をもちにくいと言われるが、平和を守るということは生活そのもの、憲法そのものだ」などの発言がありました。

徳島 「戦争反対」「憲法改悪させない共闘を」の署名と声 徳島駅前

徳島憲法共同センターは2月3日、JR徳島駅前で宣伝し、「憲法改悪を許さない全国署名」の協力を呼びかけました。

署名に応じた人たちは口々に、「戦争で人を殺すことは絶対に許せない。平成に日本は戦争をしなかった。令和も、その先も続けてほしい。憲法9条改悪には反対です」（男子高校生）、「戦争で命が失われたら、誰もその命を返してくれることはありません」（女子高校生）、「戦争体験者として、憲法9条をかえ、日本を戦争できる国にすることは許せません」（87歳女性）、「今の政治家は戦争の実態を知らないのではないか」（84歳女性）、「妹に子どもが生まれたが、戦争する国になって戦地に送られるのは何の責任もないこの子たちの世代。憲法改悪をやめさせるために野党はもっと力を合わせてほしい」（40歳女性）と語りました。

愛媛 「戦争だけは絶対ダメと考えを変えた」と署名 宇和島市

宇和島市のうわじま九条の会は1月28日、宇和島駅前商店街で宣伝し、「憲法改悪を許さない全国署名」の協力を訴えました。8人が参加した30分間の行動で24人分の署名が寄せられました。

マイクから、「米中対決の軍事衝突の危険性のエスカレートの下、岸田政権は憲法9条を変えることに前のめり。9条の歯止めを外したら自衛隊が米軍と共に戦争に突入、日本の危機を迎えてしまう」と訴え、署名を呼びかけました。対話した73歳の女性は、「とにかく平和が一番。日本も武力を強化しなければならないのではないかと思っていたが、9条を変えようとする最近の動きを見て『戦争だけは絶対にしてはならない』と考えを改めた」と署名しました。

愛媛 「国民は憲法改変など求めている」 安保法制廃止愛媛の会

安保法制の廃止を求める愛媛の会は1月29日、松山市で宣伝し、参院選で野党統一候補の実現に力を尽くす決意を述べました。

同会の井上雄基事務局長・弁護士は、「岸田内閣は、敵基地攻撃、先制攻撃を正面に位置付け、安倍元首相が言うような相手の基地を殲滅（せんめつ）する打撃力の保有も排除しない危険な議論に踏み込んでいる。国民が今求めているのは、憲法を変えることではなく、私たちの命や暮らしを守る政治だ。参院選では市民と野党の力を結集し、野党統一で自民党現職を一騎打ちし勝つことだ」と訴えました。

山本万喜雄愛媛大学名誉教授は、「改憲勢力はコロナを口実に緊急事態の新設をと言っているが、ねらいは9条改憲だ。参院選では9条を守り、平和と民主主義を大事にする政治の実現が課題となる。市民と野党の共闘の構築が大切」と強調しました。

福岡 「今反対しないでいつ反対？」発言に衝撃 南区革新懇学習会

福岡市南区革新懇は1月28日、福岡市内で「憲法改悪を許さない全国署名」を地域で広げようと学習会を開き、意思統一しました。

講演した花島敏雅弁護士は、岸田首相の下で憲法改悪や敵基地攻撃能力保持が検討されている危険性について述べました。国会で自民、公明、維新などが求める憲法審査会の開催は、改憲に向け、国会が動き出すということであり、署名活動の強化やファックスでの抗議をと呼びかけました。

事務局の報告にもとづき、今後は「『憲法改悪を許さない全国署名』推進南区連絡会議」として活動することが確認されました。討論では1月に行った街頭での署名行動・シール投票の際、若者が「今反対しないでいつ反対するのだ」と言って署名してくれたことに衝撃が走り励まされたこと、参院選で改憲勢力が増えるようなことになればどうなるかについて理解をひろげ、改憲阻止の世論を盛り上げようとの意見などが交流されました。